

1. 製品および会社情報

製品識別子

化学品の名称 アルボイル スーパーR-7000

連絡先

アルバック販売株式会社 本社

東京都港区港南 2丁目 3-13 品川フロントビル5階

Tel : 03-5769-5511

Fax : 03-5769-5521

アルバック販売株式会社大阪支店

大阪府大阪市淀川区宮原 3-3-31

Tel : 06-6397-2281

Fax : 06-6397-1171

推奨用途及び使用上の制限 ポンプ油

2. 危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響 : 飲み込むと有害のおそれ

GHS分類

物理化学的危険性	
爆発物	: 分類対象外
可燃性又は引火性ガス(化学的に不安定なガスを含む)	: 分類対象外
エアゾール	: 分類対象外
支燃性又は酸化性ガス	: 分類対象外
高压ガス	: 分類対象外
引火性液体	: 区分外
可燃性固体	: 分類対象外
自己反応性化学品	: 分類対象外
自然発火性液体	: 分類できない
自然発火性固体	: 分類対象外
自己発熱性化学品	: 分類できない
水反応可燃性化学品	: 分類対象外
酸化性液体	: 分類対象外
酸化性固体	: 分類対象外
有機過酸化物	: 分類対象外
金属腐食性物質	: 分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	: 区分外
急性毒性(経皮)	: 分類できない
急性毒性(吸入: 気体)	: 分類できない
急性毒性(吸入: 蒸気)	: 分類できない
急性毒性(吸入: 粉じん及びミスト)	: 分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 分類できない
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	: 分類できない

呼吸器感作性	:分類できない
皮膚感作性	:分類できない
生殖細胞変異原性	:分類できない
発がん性	:分類できない
生殖毒性	:分類できない
特定標的臓器毒性, 単回ばく露	:分類できない
特定標的臓器毒性, 反復ばく露	:分類できない
吸引性呼吸器有害性	:分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性(急性)	:分類できない
水生環境有害性(長期間)	:分類できない
オゾン層への有害性	:分類できない

GHSラベル要素
絵表示又はシンボル

注意喚起語
危険有害性情報

GHS分類に基づく危険有害性情報はない。

注意書き

【安全対策(予防策)】

:取扱場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置すること。
作業場の換気を十分行うこと。
保護手袋および保護眼鏡/保護面、保護マスク等の適切な保護具を着用すること。

【応急措置(対応策)】

取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする事。
:吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。
飲み込んだ場合:気分が悪い時は医師に連絡すること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄を続けること。
皮膚に付着した場合:多量の水および石鹸で洗い流すこと。水疱、痛みなどの症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受けること。

【保管(貯蔵)】

:換気のよい場所で容器を密閉し保管すること。

【廃棄】

:内容物/容器を許可を受けた産業廃棄物業者に委託し、関連法規を遵守し廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

:混合物

化学特性

:アルキルナフタレン/オレフィン系重合物の混合液体

成分及び濃度

化学名	濃度(%)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS番号
アルキルナフタレン	90~99.9	4-315	56388-48-8, 56388-47-7
オレフィン共重合体	0.1~10	非公開	非公開

4. 応急措置
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水および石鹸で洗い流すこと。水泡、痛みなどの症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受けること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗浄し、コップ 1-2 杯の水または牛乳を飲ませること。直ちに医師の処置を受けること。必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行うこと。
被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。
(吐かせる場合)
水でよく口の中を洗浄すること。可能であれば、指をのどに差し込んで吐き出させ、直ちに医療措置を受ける手配をすること。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用すること。
5. 火災時の措置
- 消火剤 : 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂
- 使ってはならない消火剤 : 水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
- 特有の危険有害性 : 燃焼ガスには、一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意すること。
- 特有の消火方法 : 燃焼源の供給を速やかに止めること。
消火作業は、風上から行なうこと。
関係者以外は安全な場所に退去させること。
周囲の設備等に散水して冷却すること。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行うこと。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用すること。消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避けること。
6. 漏出時の措置
- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
多量の場合、人を安全に退避させること。
こぼれた場所はすべりやすいために注意すること。
屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行うこと。
着火した場合に備えて、消火用器材を準備すること。
- 環境に対する注意事項 : 漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。
大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意すること。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 少量の場合は、吸着剤(土・砂・乾燥砂、ウエス等)に吸着させ、密閉できる空容器に回収して取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取ること。
大量の場合は、土砂等で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理すること。スコップまたは吸引機などで空容器に回収すること。
- 二次災害の防止策 : 漏出物の上をむやみに歩かないこと。
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備すること。
火花を発生しない安全な用具を使用すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策（局所排気・全体換気等）
: 取扱場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置すること。
作業場の換気を十分行うこと。
保護手袋および保護眼鏡/保護面、保護マスク等の適切な保護具を着用すること。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする事。
火気厳禁
防爆型の機器類を使用すること。
静電気対策のために、装置、機器等の接地を確実にすること。
取扱う場合は、局所排気内、または全体換気の設備のある場所で取扱うこと。

安全取扱注意事項

接触回避

衛生対策

保管

安全な保管条件（適切な技術対策、及び混触禁止物質との分離）
: 直射日光や高温高湿を避けること
換気の良い場所で容器を密閉し保管すること。
火気厳禁
保管条件（適切な保管条件及び避けるべき保管条件）
: 情報なし
安全な容器包装材料（推奨材料及び不適切材料）
: 製品使用容器に準ずる。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

許容濃度-日本産業衛生学会

許容濃度-ACGIH

設備対策

: 設定されていない。
: 設定されていない(2008年度版)。
: 設定されていない(2009年度版)。
: 蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置すること。
取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置すること。
機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施すること。

呼吸用保護具

手の保護具

眼の保護具

皮膚及び身体の保護具

: 必要により有機溶剤用防毒マスク
: 不浸透性(耐薬品、耐油、耐溶剤)保護手袋
: 側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面)
: 静電気防止加工長袖保護服

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理的状态, 形状, 色など)
: 淡褐色透明液体(30℃)

臭い

pH

融点・凝固点

沸点, 初留点及び沸騰範囲

引火点

燃焼又は爆発範囲の上限・下限

蒸気圧

蒸気密度

比重(相対密度)

溶解度

n-オクタノール/水分分配係数

自然発火温度

分解温度

その他のデータ

: 情報なし
: 該当しない
: 流動点:-20℃以下、融点:-30℃以下
: 200℃(1mPa)
: 230℃(COC)
: 情報なし
: 情報なし
: 情報なし
: 0.900~0.912(15℃)
: 水不溶
エタノール不溶、ヘキサン可溶
: 情報なし
: 情報なし
: 情報なし
: 動粘度:63.0~73.0mm²/s(40℃)、9.5~11.0mm²/s(100℃)

1 0. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし
化学的安定性	: 熱、光、衝撃に対して安定である。 通常の取扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 情報なし
混触危険物質	: 情報なし
危険有害な分解生成物	: 情報なし

1 1. 有害性情報

急性毒性(経口)	: 区分外
急性毒性(経皮)	: 情報なし
急性毒性(吸入:気体)	: 情報なし
急性毒性(吸入:蒸気)	: 情報なし
急性毒性(吸入:粉塵及びミス ト)	: 情報なし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 情報なし
眼に対する重篤な損傷性又は 眼刺激性	: 情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 情報なし
生殖細胞変異原性	: 情報なし
発がん性	: 情報なし
IARC	: 認定されていない
NTP	: 認定されていない
日本産業衛生学会	: 認定されていない
生殖毒性	: 情報なし
特定標的臓器毒性, 単回ばく露	: 情報なし
特定標的臓器毒性, 反復ばく露	: 情報なし
吸引力呼吸器有害性	: 情報なし

1 2. 環境影響情報

生態毒性	: 情報なし
残留性・分解性	: 情報なし
生体蓄積性	: 情報なし
土壌中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 情報なし
他の有害影響	: 情報なし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 内容物を廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し、関連法規等を遵守し廃棄すること。
汚染容器及び包装	: 空の汚染容器・包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し、関連法規等を遵守し廃棄すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規則	: 陸上輸送: RID(欧州危険物鉄道輸送規則)、ADR(欧州危険物道路輸送協定)に従う。 海上輸送: IMDG(国際海上危険物規則)に従う。 航空輸送: ICAO-TI(国際民間航空条約技術指針)/IATA-DGR(国際航空運送協会危険物規則)に従う。
国連番号	: 該当しない
国連分類(輸送における危険 有害性クラス)	: 国連の分類基準に該当しない。
特別の安全対策	: 関連法令の定めに従う。

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認すること。
転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に
行うこと。

国内規則-陸上輸送	: 消防法、毒劇物取締法、高圧ガス保安法、道路法等に定められている運送方法に従う。
国内規則-海上輸送	: 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
国内規則-航空輸送	: 航空法に定められている運送方法に従う。
緊急時応急措置指針番号	: 171

1 5. 適用法令

消防法	: 危険物第4類第4石油類 危険等級Ⅲ
労働安全衛生法	: 表示対象物に該当しない。 通知対象物に該当しない。
毒物及び劇物取締法	: 毒物・劇物に該当しない。
化学物質排出把握管理促進法	: 【平成21年度(2009年4月～2010年3月)PRTR届出対象まで】 指定化学物質等に該当しない。 【平成22年度(2010年4月～2011年3月)PRTR届出対象から】 指定化学物質等に該当しない。
物質登録情報-ENCS(日本)	: 有り
物質登録情報-TSCA(USA)	: 有り
物質登録情報-EINECS(BU)	: なし
物質登録情報- AICS(Australia)	: なし
物質登録情報-DSL(Canada)	: 有り
物質登録情報-ECL(Korea)	: なし
物質登録情報- PICCS(Philippines)	: なし
物質登録情報-IECSC(China)	: 有り

1 6. その他の情報

引用文献	: 化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)改訂4版 JIS Z 7253:2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
------	---

「記載内容の取扱い」

この情報は、新しい知見に基づき改訂されることがあります。
記載内容は現時点で入手できた資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全策を実施の上、ご利用下さい。